

## 令和3年度市川三郷町総合教育会議

(第2回)

## 議題

日時： 2022年2月15日 13:10-13:50	場所： 本庁舎2階 会議室 2
出席者： 町長 遠藤浩 教育長 渡井渡 教育委員 塩島萬夫・遠藤あやみ・渡邊久・今村孝男 教育総務課長 相川由美 生涯学習課長 森川規彦 総務施設係長 都築雅和	欠席者：
総務施設係委員 村松寛弥	
作成部署： 教育総務課 総務施設係	作成者： 村松寛弥

## 議事録内容 (1)

司会進行：相川教育総務課長

相川課長：本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。私は本日司会を務めます教育総務課長の相川由美と申します。よろしく願いいたします。市川三郷町総合教育会議設置要綱第6条により本総合教育会議は公開といたします。本日は1名傍聴をされております。ご承知おさください。

## 1.開会

渡井教育長：本日は総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。本日の議題は、前回の会議で色々のご意見をいただいた市川三郷町教育大綱について、協議を進めていただき、決定していただきたいと思っております。ぜひ、忌憚の無いご意見を出していただき、有意義な会議になりますようお願いいたします。それではこれより令和3年度第2回市川三郷町総合教育会議を開会いたします。

## 2.あいさつ

遠藤町長：改めましてこんにちは。本日は本年度第2回目の総合教育会議になります。教育長のほうからもお話があった通り、前回の会議の皆様から多くのご意見をいただきまして、今回はその点につきまして、改めて協議をしていくこととなります。また、皆様方におかれましては、教育委員というお立場の中で、町の教育に対しまして格段のご理解とご協力を賜っておりますことに感謝いたします。成人式が1月9日に行われましたが、直前に抗原検査を自治体で行うことになりました。教育委員の皆様には大変ご理解をいただき、ご協力を賜りまして、無事に成人式ができましたことに感謝を申し上げたいと思います。また過日、子どもの名簿の漏えいという事案がございました。教育委員会におかれましては初動の段階で情報を開示していただいた点、速やかに教員の確保にご尽力いただいた点について感謝申し上げます。現在、この件につきましては、採用権者であります県教育委員会で調査をしているということですので、ご理解をよろしくお願いいたします。それではこれより、令和4年4月1日から令和8年3月31日までの教育大綱について、皆様方より忌憚の無いご意見をいただきたく思いますので、よろしくお願いいたします。

相川課長：市川三郷町総合教育会議設置要綱第4条に町長が議長となる旨が定められております。遠藤町長、議長をよろしくお願いいたします。

## 3.議題

遠藤町長：それでは議題に入ります。議題①「市川三郷町教育大綱の改正について」事務局お願いいたします。

相川課長：令和3年12月15日に開催いたしました総合教育会議におきまして、委員の皆様からご意見をいただく中で、修正等をいたしました。お手元にお配りしております、新旧対照表の青い字の部分が修正箇所となります。新旧対照表のp1になります。1点目ですが、この教育大綱は第3期目になります。前回での会議ではご指摘はございませんでしたが、今までその記載がございませんでしたので、分かりやすいよう表紙に「第3期」と表示することといたしました。次にp2をお願いします。2点目になりますが、新たな改正になります。現行では「賑わうまちづくり、誇れるまちづくり」とありますが、第2次総合計画の施策体系に合わせて、「誇れるまちづくり、賑わうまちづくり」と言葉を入替えさせ

ていただきました。3点目ですが、p3～p4になります。「持つ」という漢字表記を「もつ」というひらがな表記に修正いたしました。一般的には手で持つという場合に漢字表記をするということで、こちらのほうをひらがなで表記をさせていただきます。4点目になります。P5をお開きください。今後SDGsの取組みが大きな影響を与えるため、SDGsについて教育大綱で推進したほうがいいのではないかとご意見をいただきまして、「(2)学校教育の充実」の③番として、「③SDGsに関する学習を深め、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動する意欲や態度を育みます。」と加筆をさせていただきます。生涯学習課長に代わります。

森川課長：p5の(3)生涯学習スポーツの推進についてですが、p6をお願いします。②の「公民館を生涯学習の拠点とし、造詣を深め…」という点で何に対して造詣を深めるのかが分かりづらく明確にした方がいいとご指摘をいただきましたので、「生涯学習に関する造詣を深め…」という表記に修正させていただきます。次に③の2行目ですが、「障がい者への理解を深め…」の部分を「障がいをおもちの全ての方への理解を深め…」に修正させていただきます。こちらは聴覚障がい者に限らず、全ての障がいをおもちの方と、より分かりやすくするため、このような表記とさせていただきます。

相川課長：p7をお願いします。基本目標3になりますが、こちらの①～④の順番を変更させていただきます。まず、地域のことを知り、地域理解の向上を図ることから、それを①といたしました。次に姉妹都市との交流を図るため、国際交流協会への支援を強化することを②とし、また②と同じように、姉妹町の西伊豆町との交流も発展させてくということで、③といたしました。そして交流の現状や、交流したことによる成果と課題を検証し町民に周知していくことを④といたしました。①～④の時系列順になるように順番を変更させていただきます。また、「課題と成果」という表記ですが、一般的には「成果と課題」という表記で表すということで、④の通り「成果と課題」と修正いたしました。同じくp7の(2)地域・伝統の継承の①の部分と、基本目標3の(1)の①の部分が同じ内容ではないかということで、合わせてもよいのではないかとご意見をいただき、事務局で検討をいたしました。地域・伝統の継承については、書かれているように、「地域の自然や歴史、人物、伝統産業、特色ある農業などを知る」と捉え、姉妹都市交流の「地域のことを知っておく」というところは前述の伝統産業を知ることに加えて、地域に外国人がどのくらいいるのか、どのような方なのか、どのような暮らしをしているのか、外国人が暮らしやすい場所なのかなどを知るという意味も含めるため、それぞれに表記することといたしました。以上説明とさせていただきます。

遠藤町長：ご質問・ご意見はございますでしょうか。

各委員：一同無し。

遠藤町長：それでは教育大綱(案)につきまして、承認していただける方は拍手をお願いいたします。

(各委員拍手)

遠藤町長：拍手多数で承認されました。

相川課長：ありがとうございました。令和4年4月1日から令和8年3月31日の4年間の大綱になります。ご承認ありがとうございました。

遠藤町長：議題②意見交換に移ります。教育委員の皆様から何かございますでしょうか。

渡邊委員：今年の3月をもって市川高校が閉校となり、4月から青洲高校に統一されます。町は今まで市川高校と歩んできて、色々な行事に市川高校の生徒が来たり、子どもたちも市川高校に行ったりしていました。町として青洲高校とどのように寄り添っていくのかをお伺いしたいです。また、市川三郷町にある高校ということで、市川三郷町に在住の子どもたちが青洲高校に行きたいと思ってくれることを期待しています。市川高校には英語科という県内でも珍しい科がありましたが、今後そういった科や生徒が行きたいと思う高校になってほしいという願いがあります。この魅力のある高校と市川三郷町がどのように前に進んでいくのかお聞きしたいです。

遠藤町長：順序が逆になりますが、青洲高校の普通科の中に英語類型という英語を1時間多く授業のカリキュラムに組み込んだクラスがあります。青洲高校もこれを特徴として示していきたいということを考えているようなので、町も協力できることはしていきたいと思っています。今後の交流についてですが、コロナ禍で色々なイベントができない状況なのですが、高校の校長先生にも役場に来ていただく中で模索をしている段階です。今週も話し合いの場を設ける予定になっております。コンサートの交流など様々ありましたので、今後も引き続きできればと思っております。

渡井教育長：教育委員会関連で青洲高校との連携に関してですが、現在ふるさとキャリア教育というものを推進しておりまして、その中に高校との連携というのも非常に強くなっております。とりわけ渡邊委員が言われたように、本町にある高校で

すので、青洲高校との連携を深めていきたいと思っております。具体的には本町の中学生が青洲高校について、できる

だけ知ることが非常に大事だと思っておりますので、早速、来年度の年間指導計画の中に全中学校が高校を見学することを計画の中に位置付けてもらいました。そしてそれを実施していきたいと思っております。それ以外にも今後町長が言われたようなことも含めて、色々なことを青洲高校とやっていけるのではないかと考えています。市川高校の伝統、増穂商業の伝統、峡南高校の伝統のそれぞれいいところを青洲高校のほうで出させていただく中で、中学生もそれに関心をもって、できるだけ多くの中学生が青洲高校で学べるようになったらいいなと思っております。

遠藤町長：渡邊委員、何か提案等はございますか。

渡邊委員：この前の神明の花火でも高校生のコーラスと合わせて花火を打ち上げたり、夢工房で賞状を作ったり、よかったという声を聞いています。勉強やスポーツ、スポーツは私学におされておりますが、バスケットボール、バレーなど県立でも活躍できる学校、多くの子どもたちが来ていただける学校になっていただければと思います。市川三郷町民はとても期待していて、市川高校を卒業したOB、OGは青洲高校でのあらゆる場面での活躍を期待しています。高校が目立ってくれば、高校のある町も活気のある町に回復してくると思っておりますので、青洲高校が私学に負けない高校になることを期待しています。

遠藤町長：ありがとうございます。他にご意見・ご質問はございますか。

渡井教育長：別件になりますが、昨年度から新型コロナの蔓延に伴って、学校教育も色々な規制を余儀なくされました。感染予防対策はもちろんです、学校行事等の見直しや予定変更、子どもたちが考えながら予防をしていくということを取り組んできました。教育委員会としては一貫して、子どもたちが自分の頭で考えて行動できる子を育てたいという気持ちでやってきました。先生たちから指示、指導を受けるだけではなくて、なぜそれが今できないのか、できないならばどうすればいいのかということを考える子どもたちを育ててほしいという思いがありました。コロナ禍だからこそ育てることができるのではないかと、一貫してお願いしてきました。その成果だと思うのですが、1月16日の山日の投稿欄に市川中学校の1年生が投稿しておりました。これを読みとても嬉しい気持ちになりました。タイトルが「嫌いなコロナに教えられたこと」ということで、とても中学生らしくて、素直でいいなと思ったのが、コロナだから頑張るといった内容ではなく、コロナが嫌いだと言っているところです。日常に当たり前に行っていたことができなくなり、色々な規制があり、コロナが嫌いだと前半で言っています。しかし後半で、その反面学ぶことも多かったと言っていて、当たり前に行っていたことが当たり前でできないことは辛いことで、当たり前でできることを大切にしないといけないと言っていました。最後に「そうしたらきっと嫌いなものでもよい面があると知れると思う。」とまとめた、そういった投稿でした。子どもたちがこういった中で、とても成長しているということが嬉しく思いました。子どもたちをこう育てたいという思いが具現化されたように感じ、教育の成果というものが現れているのではないかと感じました。これからも、こういった日々が続くかもしれませんが、たくましく、素晴らしい子どもたちが育っていくように、一生懸命取り組んでいかなければいけないと感じました。

遠藤町長：自分の頭で考えて行動するということは、自主性を身に付けるということですか。

渡井教育長：自主性を育てるといってもそうです。コロナだからマスクをする、手洗いをするということが先生が指示すれば、先生がいるところではするけれど、いなくなったらしないということもあると思います。そうではなくて、なぜマスクや手洗いが必要なのかということの説明して、飛沫感染や接触感染のことをしっかりと子どもたちに考えさせる教え方をすると、先生がいなくても自分でやると思います。家に帰っても、親にそういったことを言う子どもを育ててほしいということで、自ら考え行動すること、そこから自主性も出てくると思いますが、そういった子どもを育てていきたいと思っております。これは防災教育の基本的な考え方になっております。自分で考えて逃げる、自分で考えて行動することが大切だと言われていて、勝手に自由に行動するというのではなくて、そういうことの積み重ねで育まれるのだと思っております。

遠藤委員：私が教育委員になって感じたことですが、やはり大きなうねりとして、ICT教育が進んだと思います。まだ追い付いていない部分もあると思います。リテラシーや使い方、モラルだということが非常に重要になると感じております。本町でも不祥事がありました、我々大人も厳粛に受け止めて、自分のこととして考えて、大人もICTについて学んでいて、子どもとともに暮らしを豊かにしていく必要があると思いました。学校教育の現場だけではなく、町民全体がそういったものに理解を深めるということが非常に大事だと思えました。

遠藤町長：生涯学習の面でICTはどのように活用されていますか。

森川課長：生涯学習での具体的な事例をあげますと、色々な講座事業をサテライトで行うという動きがございます。県の生涯学習

推進センターで行っている講座事業を生涯学習センターの会議室をサテライト会場として行うこともありました。今後、そういった形の講座事業に関しては、様々な可能性があると感じております。もう一つは、現在PayPayのキャンペーンも行っていますが、スマホ教室も行っておりまして、生涯学習センターや三珠総合福祉センター、六郷地区では文京交流センターなどを会場に開催をいたしました。コロナ禍ということで人数制限はあったのですが、各会場ともとても人気で、ご高齢の方の申し込みが多くありました。そういった面で、生涯学習のICT普及促進に取り組んでおります。

渡井教育長：学校現場では、今年の4月から一人一台端末が導入されておりまして、現在、一生懸命取り組んでいる最中です。どんなことができるのか、リテラシーの問題では、そこまで進んでおらず、今後、新聞等を活用し学習することも考えられます。情報モラルについても非常に重要で、情報モラルもどのように教えていくのか、車の両輪のようなものだと思いますので、これを進めていくことも重要なICT教育だと思いますので、今後、こういったことを指導計画の中に入れながら実施していくことが大切だと思います。今は、一人一台端末を使い始めている段階で、これからは、そのようなことが課題だと考えております。文科省でもICTに関しては、今までの黒板を利用した対面の教育と、ICTを使ったハイブリット化が求められていると言っています。リアルな体験学習とICTを上手く駆使して学習していく必要があり、1つ注意点としては、ICTを使うことが目的ではなくて、あくまでも学習の道具として使うことが求められます。これからは、学校教育でもそういったことを学んでいく必要があると考えています。

今村委員：町の生涯学習の講座でエクセルやスマホの使い方を学ぶ機会がありますが、それと並行してリテラシーやモラルの問題も学んでいく必要があると思いました。こういったことが問題になるのか、親子で学んでいく機会があると嬉しいと感じました。

渡井教育長：OECDの調査結果によると、パソコンなどの情報機器を使って授業を行ったり、友達同士での議論で使用したりすることに関しては、世界的に見て日本は非常に遅れているのですが、電子機器を使ったゲームに関しては、世界でも一番進んでいるという結果があります。SNSを含めて、指導者よりも子どもたちのほうがはるかに進んでいて、情報モラルを教えようとしても、子どもたちのほうがよく知っているという点があると思います。今後、教職員の研修を含めて、勉強していく必要があると感じております。

遠藤町長：先ほど言われた指導計画とは教員に対する指導計画ですか。

渡井教育長：子どもたちに教える指導計画ですが、その中に、例えば1か月に1回は情報モラルの勉強を入れるなど、そういった計画をしっかりと立てていくことが必要になると思います。

塩島職務代理：町長の所信表明の中で、町発展の最重要課題は人材育成だということで、併せて前回の総合教育会議の中で、行政としてどのような支援が必要ですか、と言っていただき、前向きに取り組んでいけると考えております。教育委員会としても、様々な体制整備や措置などの方策を打ち出して、それを少しでも町のほうでバックアップして進めていければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

遠藤町長：他にご質問・ご意見はございますでしょうか。

各委員：一同無し。

遠藤町長：議題③その他に移ります。委員の皆様から何かございますでしょうか。

各委員：一同無し。

遠藤町長：以上で議題は終了とさせていただきます。

#### 4.閉会

渡井教育長：教育大綱に関しましては、前回様々な意見をいただいたので、スムーズに決めることができました。意見交換では、委員の皆様からたくさんのご意見をいただきました。町長を交え、直接意見交換をする機会もあまりありませんので、本日はとても有意義な会議になったのではないかと思います。今後も、町政に対してもご意見やご協力をいただく中で、教育委員会と町が一体となって市川三郷町をさらに発展させていければと思います。これで市川三郷町総合教育会議を終了といたします。

(午後1時50分閉会)